

インドネシアにおける 野生オランウータンの生息地の 回復・再生事業

〒162-0065
東京都新宿区住吉町8-23
富井ビル2F
電話: 03-5363-0170
E-mail: mof.orangutan@gmail.com
http://moforangutan.web.fc2.com



ひろげる助成

3年目

実践



オランウータンの食べる野生の木の苗

関係者との協議を深める

3者

森林再生への提言をまとめる

1回

今年度計画の達成度

90%

活動の全体目標に対する達成度

80%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

オランウータンの保護
という「孤児を育てる活
動」がよく取り上げられ
るため、本来もっとも重
要である森林の保全への
意識が薄くなり、理解が
進まない。

■ 工夫した点

現地の村人の協力を得
ながら、彼らの視点で活
動を進め協働を深めるこ
とで、森林保全への関心
を高めていった。

課題

開発や入植の進行による森の荒廃をくい止め、野生オランウータンの生息地である熱帯雨林の保全を図ること。

目標

オランウータンの生息地、森林状況のこれ以上の悪化を防ぎ、再生への道筋をたてること。

活動内容と成果

野生オランウータンの長年の研究をもとに、オランウータンが使える森を再生するにはどうしたらよいかを研究者の観点で考え、実践する取り組み。熱帯雨林の保全は生物多様性の維持のためにも欠かせない課題であり、そこに住むオランウータンをシンボルにこの課題に取り組んでいる。豊富な研究データをもとに実際に彼らが森で好んで食べている樹種を育苗し、荒廃地に植樹することで復元・回復を図ろうと、石炭の露天掘りなどの開発が進む現地において、石炭会社に緩衝林の再生を呼び掛けるなど、広く保全の活動を進めた。



オランウータンの好物マリガラ

全助成期間の活動を振り返って

この間、石炭会社との間でもいろいろな話し合いが進み、現在の森林および再生森林の状況やオランウータンの利用状況などが明らかになるなど基本的な現状把握が進み、今後の協力に対してかなり前向きな協議ができた。ただ実際には石炭会社内の地域にも多くの違法民が住み着いており、こうした地域のなかで再生森林のエリアをどのように位置づけ、再生の動きを進めていくかが今後の課題である。



森林調査は道なき道を進む

今後の展望

この地の森は赤道直下の熱帯雨林として生物多様性の保全のために欠かせない森であると同時に、日本にとっては石炭などの天然資源の宝庫として重要な森である。地球環境が取り上げられる一方で、熱帯の森と私たち日本人の暮らしとの関係にはあまり関心が払われていない。現地での活動が忙しくなったため、この間国内での普及啓発活動が手薄になっているが、今後は理解の輪を広め森林の再生という長期間の活動を維持していきたい。